

船上山（山頂）歴史と景勝の山「大山隠岐国立公園 船上山」

ここ、船上山の山頂（615 m）にはなだらかな草原が広がる。南の勝田ヶ山（1149 m）、甲ヶ山（1338 m）、矢筈ヶ山（1358 m）と同様に、船上山は大山北側の外輪山の一部である。山頂の硬化した溶岩円頂丘は 60 万年～ 40 万年前に形成されたもので、大山の過去の噴火時にその場所にできた岩の上に作られた。

船上山は近隣の山ほど高くはないものの、その歴史は奥深い。718 年、奈良時代（710 年 - 794 年）に、大山は山岳信仰と道教の山岳修行の要素が合わさった真言宗の一大信仰地となった。平安時代（794 年 - 1185 年）には、東にある三徳山の寺と大山寺というふたつの寺とつながりがあった。「伯耆三山」として知られる大山は、真言宗信徒のみが立ち入ることが許された聖なる山頂だった。

数百年後、船上山は日本の歴史で別の役割を演じた。1332 年に後醍醐天皇が鎌倉将軍（1185 年より日本を統治していた武家政権）への謀反を計画したかどで隠岐島への流刑に処された。後醍醐天皇は翌年脱出して船上山へ逃げ、そこで地元の君主、名和長年にかくまわれた。彼らは、三方を薄い崖で取り囲まれた要塞のような船上山山上に共に籠った。攻撃を仕掛けた将軍勢力は打ち負かされた。後醍醐天皇が船上山で勝利したことで、鎌倉幕府は幕を閉じ、日本の統治権は天皇へと戻った。

東側の小さな丘を登ると石のモニュメントが目に入る。かつて後醍醐天皇がここに立って船上山山頂からの眺めを楽しんだこと記念して 1924 年に建てられたものだ。その後ろの地面には、「1923 年」と別の彫刻者の名前が刻まれている以外はほぼ同じ碑文が刻まれた別のモニュメントが転がっている。おそらく最初のモニュメントが設置後すぐに倒れてしまい、次の年に別のものに建て替えられたのだろう。

後醍醐天皇の住居跡が、船上山南西の智積寺跡の近くにある。それらは 1932 年に国の史跡に指定された。